

KOMAZAWA X WASEDA

駒澤大学

ワセダ大学

この日関東リーグ2部の早大に4得点を許してしまった駒大。4連覇がかかっていただけに痛恨の大会となってしまった(撮影・野澤俊介)



二度も逆転され 自分たちのサッカーやり切れず

早すぎた敗退

波に乗る早大と怪我人続出の駒大が大臣杯準々決勝に挑む。彼らの目的は一つ、タイトルを獲得。だが3連覇している駒大にとってはただの優勝ではなく、4連覇をかけた試合であり、目が離せない戦いが今始まった。

前半5分、早くも流れは動く。宮崎からのパスを筑城がミドルシュート。先制点を奪取。スタンドからも歓声がかかる程の見事なゴール。その後相手にボールを回され、ひやっこさせられるシーンが続くが、38分塚本のFKに廣井が合わせ追加点を奪う。だが、そのまま勢いには乗れず42分、44分とPKを与えてしまい兵藤に決められる。一気に追いつかれ再び振り出しに戻る。

しかし0対0だと思えば45分あるのでそれをきっちり戦えればと思つた(牧野)というように彼らに焦りはなかった。その言葉通り後半立ち上がり、PKを宮崎がものにし一歩リードとなる。ここで巻き返えされたくない駒大だが、プレスをやめてしまい逆に向かい風となってしまう。狂い始めた歯車は噛み合わず70分ファウルをとられる。FKを鈴木に決められ再度同点に。さらに88分に兵藤が蹴るCKを横山がディングシュートし逆転を許してしまう。なんとが延長にもつていきたいところだが焦るはかりで得点には至らず試合終了のホイッスル。この瞬間、王者駒大の敗退が決まってしまった。

副将の赤嶺は敗因を相手の方が気持ちが上がった」と語った。桑原も「気持ちの問題と監督の言うサッカーが最初から最後まで徹底してできなかった」と振り返った。これで目指していた4連覇と、3冠の夢までも途絶えてしまった。だがよくよしている暇はない。天皇杯予選や後期リーグ戦まだまだ大会は残っている。この悔しさを胸に、次は優勝を手にしたイレブンの笑顔が見れることを期待している。

(深松 美里)